

セラピストを目指す学生が考えるふさわしい化粧とは

作業療法士学科夜間部

【背景】

化粧とは、見る人の印象を操作するものである。また、化粧は個人の価値観に影響されるため、医療現場において明確な基準が示されていない。そのため、自分本位の化粧をするのではなく、他者がどのように感じているのかを意識して化粧をする必要がある。よって、本研究によりセラピストとしてどのような化粧がふさわしいのかを明らかにする。

【対象および方法】

大阪医療福祉専門学校（理学療法士学科，作業療法士学科）に在籍する男 84 名，女 97 名，合計 181 名を対象とした。アンケート調査を行い，回収した。調査項目：「セラピストは化粧をした方が良いか」，「濃い化粧，ノーメイクから考える印象」について問う。次に，化粧 A（ファンデーション，眉墨，口紅，チーク），化粧 B（ファンデーション，眉墨），化粧 C（ファンデーション，眉墨，濃い口紅，濃いチーク・濃いアイメイク），化粧 D（ファンデーション，口紅，チーク，アイメイク），の 4 種類の写真を提示し，「化粧の濃さはどの程度か」「最もふさわしいと考える化粧とは何か」について選択する。

【結果】

セラピストは化粧をした方が良いかという問いには，「した方が良い（57%）」，「どちらでも良い（37%）」，「ノーメイクでも良い（6%）」であった。濃い化粧の印象は，「近づきにくい」，「話しかけにくい」といったネガティブな意見が多く，ノーメイクの印象は，「不健康そう」という意見が多かった。化粧 A，化粧 B，化粧 C，化粧 D という 4 種類の写真を比べてもらったところ，化粧 B において薄いという意見が多くみられた。化粧 A，化粧 D においては標準的という意見が多くみられた。化粧 C においては，濃いという意見が多くみられた。4 種類の写真から最もふさわしいと答えたのは，男女とも D であった。理由として，「濃すぎず薄すぎない」「自然体で話しかけやすそう」などという意見が見られた。次いで，男性は化粧 C，女性は化粧 A をふさわしいと答えた者が多かった。

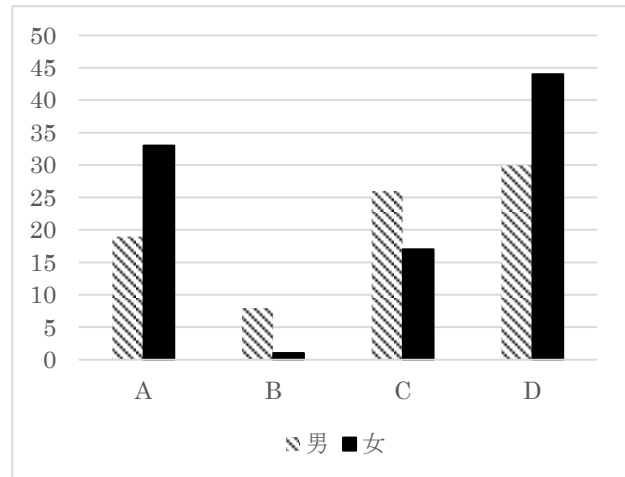


図 1.男女で比較したセラピストとしてふさわしい化粧

【考察】

ファンデーションと眉墨だけの薄い化粧は不健康そうという意見が多く，ファンデーション，眉墨，濃い口紅，濃いチーク，濃いアイメイクで施された化粧はネガティブな意見が多い。このことから薄い化粧，濃い化粧はセラピストとしてふさわしくないと考える。その結果，濃すぎず薄すぎない化粧がセラピストにふさわしい化粧であると考えられる。

また，男女共に最もふさわしい化粧は同じであったが，次いでふさわしいと思う化粧は男女によって違いがあった。これは，荻ら¹⁾によると「個人化や価値観の多様化は化粧のあり方にも影響を齎していることが考えられる」と述べられているように，ふさわしいと考える化粧は個人の価値観や男女の違いによっても影響を受ける物である事が理由と考える。

【まとめ】

本研究を通して，化粧は個人の価値観や男女においても影響を受けることがわかったが，どの程度の化粧がセラピストにふさわしいのかをはっきり断定出来る結果を出すことが不十分であった。そのため，今回の結果はふさわしい化粧の一つの目安としてとらえるべきである。

【文献】

- 1) 荻あや子，玉谷奈都美・他：大学生が患者の視点で捉えた看護師の化粧に対する評価。岡山県立大学保健福祉学部紀要。21(1)，2014，131-141。